

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	杉谷 正次
最終学歴	学 位	専 門 分 野
愛知学院大学大学院文学研究科博士課程前期修了	文学修士	スポーツ経営学、経営情報学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

自らのクレド「教育も研究も一步一步着実に」をモットーに、学生には、ものの見方や考え方の基礎・応用を身につけるとともに、本学園の建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を教育理念とする

【目標】

教育力の向上を目指すとともに、建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」、校訓「真面目」、教職員の心構え「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事（つか）うるの職分なり」を意識した教育活動に努める。教育力の向上については、「魅力ある授業づくり」、建学の精神を意識した教育活動については、「問題解決能力を備えた、真面目で責任感のある人材」を育成する。

【方針】

事前事後学習を積極的に取りこませる授業、わかりやすく興味の持てる授業を目標とした「魅力ある授業づくり」に取り組む。

【計画（方法）】

本学が導入している PC 必携（BYOD）制度を最大限に生かし、講義科目、演習科目とも PC を積極的に活用する。講義科目では、毎時間シラバスで提示した講義の目的と概要を提示するとともに、事前事後学習につなげるための資料提示、毎回提示する課題を活用しつつ、学生ひとり一人の理解度を確認していきながら講義をすすめる。演習科目では、問題解決能力を身につけさせるため、各自が設定した研究テーマにおける課題を明確にさせ、それに対するレポート作成、プレゼンテーションなどの指導にあたる。特に 3 年生の専門演習では、研究発表、また 4 年生の専門演習では、卒業レポートを作成して研究発表ができるよう指導する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

PC・ネットワーク入門、スポーツビジネス、スポーツマネジメント、スポーツ情報論、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、総合演習Ⅰ

（後期）

クラブ組織論、データベース演習、データリテラシーⅠ、専門プロジェクトⅣ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、総合演習Ⅱ

○教育方法の実践

コロナウイルスも落ち着き、すべての授業を対面形式で実施することができた。特に講義科目では、映像教材を多数導入するなど、「わかりやすく興味の持てる授業」を実践した。教育方法の実践としては、本学が導入している PC 必携（BYOD）の制度を最大限に生かし、講義科目、演習科目ともに PC

を積極的に活用した。また講義科目では、小テストを毎回導入することにより、学生の理解度を確
認しながら授業をすすめた。

○作成した教科書・教材

講義科目で使用する映像資料を多数作成。また「PC・ネットワーク入門」「データリテラシー I」の
教科書『コンピューターリテラシー(2023年度版)』(共著:高木・杉谷・正岡)、さらに「データベー
ス演習」の教材を新たに作成した。

○自己評価

本年度の教育活動における目標・計画については、概ね達成することができたと考える。

講義科目については、事前事後学習につなげるための課題提示、毎回実施する小テストを活用する
など、学生ひとり一人の理解度を確認していきながら授業をすすめることができた。

演習科目「総合演習 I・II」、「専門演習 I・II」「専門演習 III・IV」では、レポート作成、プレゼン
テーション、研究発表を行うことができ、同授業についても当初の目標を達成することができた。

II 研究活動

○研究課題

スポーツツーリズムに関する研究

○目標・計画

【目標】

これまで発表してきた研究成果をもとに、今後のスポーツツーリズムのあり方について検討する。

【計画】

スポーツツーリズムに取り組む自治体、スポーツ団体、NPO法人などを対象とした調査を実施し、
新たなデータや資料収集をする。

○2016年4月から2024年3月の研究実績(特許等含む)

(著書)

- ・杉谷正次, 石川幸生『持続可能なスポーツ・ツーリズムへの挑戦』唯学書房, 2020年3月, pp. 1-49.
- ・杉谷正次, 石川幸生『現代スポーツマネジメントーマーケティングからマネジメントの時代へー』三恵社, 2016年9月, pp. 21-29, pp. 72-127.

(学術論文)

なし

(学会発表)

- ・Masatsugu SUGITANI, Yukio ISHIKAWA, Takashi ONO, Mamoru AOKI : Study on the Park-golf of the effects of a lifetime sport, From the survey of the awareness of Park-golf enthusiasts, International Conference of the 66th Japanese Society of Education and Health Science, Dong-A University Sunghak Campus South Korea, Journal of Education and Health Science, Volume 64, Number 1, August, 2018, p75.
- ・杉谷正次, 石川幸生, 青木葵, 脇坂康彦, 小野隆「生涯スポーツとしてのパークゴルフの研究ースポーツ・ツーリズムに着目してー」第64回日本教育医学学会大会, 三重大学, 2016年8月, p55.

(特許)

なし

(その他)

- ・『第2次西尾市スポーツ推進計画』西尾市教育委員会，2024年3月
- ・『西尾市スポーツまちづくりビジョン2040』西尾市，2023年3月
- ・杉谷正次，石川幸生『パークゴルフにおけるアンケート調査報告書』（共著），公益社団法人日本パークゴルフ協会(NPGA)設立30周年記念事業，ソーゴ印刷株式会社，2017年9月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

2018年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究(申請1件、採択1件)

2017年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究(申請1件、採択1件)

2016年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究(申請1件、採択1件)

○所属学会

経営情報学会、日本情報経営学会、日本教育医学会、日本スポーツ産業学会、日本生涯スポーツ学会、日本スポーツマネジメント学会

○自己評価

当初計画していたスポーツツーリズムに関する実地調査（沖縄県、北海道ニセコ地域、愛知県西尾市等）を実施するなど、今後のスポーツツーリズムのあり方について検討することができた。

III 大学運営

○目標・計画

【目標】

委員会等の諸活動に積極的に関与し、大学運営に寄与する。

【計画】

学長補佐（入試戦略担当）、入試委員会委員長としての業務をこなし、大学運営に貢献する。

○学内委員等

入試委員会、大学協議会

○自己評価

本年度も学長補佐（入試戦略担当）、入試委員長としての業務をこなし、当初の目標である大学運営に貢献することができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

高・大連携授業等に積極的に関わるとともに、地域貢献、社会貢献としての地域スポーツ振興に寄与する。

【計画】

系列校である東邦高等学校の高・大連携授業、外部の高等学校から要請のあった出張講義を積極的

に行う。また、日進市サッカー協会理事として、同サッカー協会の運営、愛知県西尾市より委嘱を受けた西尾市スポーツ推進計画策定委員会委員長として、地域スポーツの振興に寄与する。

○学会活動等

日本情報経営学会第86回全国大会(於：富山大学)に参加

○地域連携・社会貢献等

日進市サッカー協会理事(2008年7月～現在に至る)

第2次西尾市スポーツ推進計画策定委員長(2023年5月～2024年3月)

○自己評価

学外の活動では、日進市サッカー協会理事として地域スポーツ振興に貢献することができた。また、愛知県西尾市教育委員会より委嘱を受けた「第2次西尾市スポーツ推進計画策定委員会」の委員長として、地域スポーツの振興に寄与した。

V その他の特記事項(学外研究、受賞歴、国際学会交流、自己研鑽等)

なし

VI 総括

本年度も学長補佐(入試戦略担当)・入試委員長としての業務でかなりの時間を費やしたが、当初の目標・計画であげた課題を概ね達成することができた。次年度も教育・研究活動のための時間を確保するなどして、さらなる教育・研究面で成果をあげられるよう努力したい。

以 上